

第5学年 道徳学習指導案

日 時：平成29年11月7日（火）

場 所：5年1組教室（3階）

授業者：田中 里佳

児童数：33名

1 資料名：「ひびけ！心のハーモニー」
出典：広島県教科用図書出版株式会社
内容項目：友情、信頼 B-（10）

2 指導の立場

（1）児童の実態

本学級は、男女協力して学習したり元気に遊んだりすることができる。また、友達が失敗したり困っていたりすると、誰でもやさしく励まし、手伝う姿もよく見られる。

一方で「同じゲームをもっているから」という理由で特定のグループを作る姿もよく見られる。

また、高学年という発達段階から、気の合う特定の友達と過ごしたり、異性を意識して行動したりする傾向も少しずつ見られ始めている。

（2）本時の指導について

【年間指導計画の工夫】

電子掲示板についての正しい知識を得るため、事前に短学活の時間に、映像教材（広教：事例で学ぶNetモラル）を見る。電子掲示板は、不特定多数の人が閲覧できること、投稿を削除しても、元をコピーされ広まっていくこと、相手を傷つけるような書き込みをしてはいけないことを理解し、本時の学習につなげる。また、授業後に本時の内容と関わるソーシャルスキルトレーニングを行い、望ましいスキルを身に付けさせる。自己の振り返りとソーシャルスキルのワークシートを用いて、評価につなげたい。

【指導方法・指導形態の工夫】

「議論する道徳」を具現化するために、「ふかめる」の終末には、グループ活動を設定する。議論する時間を設けることにより、一人一人が考え、発言する機会を増やす。

議論し、考えを深め、掲示板に書き込みをしたことへの謝罪や後悔の気持ちだけではなく、友達の努力や願いを考え、信頼し合うことが、本当の友達であることに気付かせる時間としたい。

【学習環境の工夫】

議論の時間には、グループごとにホワイトボードに意見をまとめていく。ホワイトボードをタブレットPCで撮影し、写真を大型テレビに送る。そうすることで、他のグループの話し合い内容が比較対象となり、自分のグループの話し合いをより深めることができる。

3 本時のねらい

自分の一時的な考えで相手を判断すると信頼関係が壊れてしまうことに気付き、友達の本物の気持ちを考え、互いに信頼し合うことで、友情を深めようとする心情を育てる。

4 本時の展開

※ICT活用について

	過程の目標	主な学習活動	指導・援助
つかむ	○本時の主人公を理解し、学習への意欲をもつことができる。	1. 本時の資料の主人公や登場人物について説明を聞く。	・主人公と陽子は、大の仲良しであることをおさえ、友情・信頼への価値の方向づけをする。
ふかめる	○あらすじを知り、感想をもつことができる。 ○友達の陽子の悪口を電子掲示板に書き込んでしまう主人公の弱さに共感することができる。	2. 資料の範読を聞く。 教師の範読を聞き、主人公の気持ちがわかる場所に線をひく。 ・陽子が指示をするとカチンときてしまう。 ・友達の悪口を掲示板に書き込んだ。 ・はやく練習が終わってくれないかと気が気でなかった。 ・すぐに掲示板の書き込みを削除した。 3. 主人公の気持ちを考える。 ○電子掲示板に書きこみをした主人公はどんな気持ちなのだろう。 ・ちょっと間違えただけなのになんできつく注意するのか。 ・言い方が嫌いだ。 ・リーダーだからっていい気になりすぎ。 ・こっちの気持ちも考えてほしい。 ・掲示板上に書いて、広めてしまえ。 ・幸子も同じ気持ちだから私が代表して書こう。 ○先生の話聞いた主人公は、どんな気持ちなのだろう。 ・陽子の悪口を聞いてしまった。とんでもないことをしてしまった。 ・陽子のために、今すぐ書き込みを削除したい。 ・陽子が何度も先生に相談していたなんて知らなかった。 ・陽子は、クラスのために思って行動していたなんて知らなかった。	※大型テレビに主人公の挿絵を映し、主人公の気持ちを考えることを確認する。 ・自分の勝手な思いと、苛立ちだけの一方的な思いをもち電子掲示板に悪口を書き込んでしまう主人公の弱さをおさえる。 ・自分の行動を省みて、後悔し、反省する主人公の気持ちを整理して板書する。 ・主人公の道徳的価値の高まりを、板書に示す。
	○先生の話を聞き、自分の行動を省みる主人公の気持ちを考えることができる。 ○友達の陽子に想いをよせる主人公の気持ちを考えることができる。 ○主人公の行動について考え、友達との信頼関係を築くことについて考えることができる。 ○今までの経験から、自分の仲間関係をふり返ることができる。	4. 主人公の気持ちについて議論する。（グループ活動） ◎主人公はどんな気持ちで陽子の家に言ったのだろう。 ・あんな書き込みしなければよかった。 ・陽子ごめんね。とても後悔している。 ・友達のことを決めつけてしまっただめだった。 ・陽子の頑張りをちゃんとわかってあげればよかった。 ・陽子は、学級のためにがんばっているのだから悪口を言わなければよかった。 ・私が陽子の気持ちをわかってあげればよかった。 ・これからは合唱コンクールの練習も一緒にがんばる。 5. 自己を見つめる。 自らの生活経験をもとにして、そのときの気持ちや本時の授業で感じたことを書く。 ・友達が呼びかけをしていたのに、いやだな、と思ってしまった。友達の気持ちを考え、すぐに行動し、一緒に呼びかけをするとよかった。	※タブレットPCの機能を使って他のグループの話し合いを共有する。 ・児童の考えを認めて価値付ける。 ・「陽子に謝る」という意見が出ているときは、何を謝るのか考えさせる。 ・児童の発言を拾いながら本時の価値へと方向付ける。 ・本時の価値に迫った文を書いている児童に発表してもらおう。
まとめる	○互いに信頼し合し、学び合って友情を深めようという気持ちをもつことができる。	6. 教師の説話を聞く。 教師の体験談をもとに、互いに信頼し合し友情を深めることについて考える。	・教師の体験から、友達と友情を深めた出来事を話す。 ※大型テレビに写真を映す。

あなたなら、どうする？

次の話を読んで、考えてみましょう。

むくの木集会の練習がはじまりました。実行委員になったあみさんは、5年生の発表を成功させるためにがんばっています。ふれあいタイムのことです。運動場に行こうと思って、算数教室の前を通りました。ふと、算数教室の中を見ると、あみさんが一人でむくの木集会の台本を見ていました。

5時間目は、むくの木集会の練習です。あみさんは実行委員会なので、みんなの前に出て指示を出します。

「その声ではだめ！もう一回！やり直しね。」

ゆうやさんは、「まだやるの？…」とつぶやきました。学級のみみんなも不満そうです。



質問1 こんな時、あなたはどうしますか。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

質問2 それはなぜですか。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
